

仙台市博物館協議会（平成 30 年度第 1 回）会議録

1. 会議の年月日 平成 30 年 5 月 22 日（火）
2. 開会及び閉会の時刻 午後 3 時から午後 4 時 30 分まで
3. 出席委員の氏名（五十音順・敬称略）
尾崎彰宏、小野寺健、菊池勇夫、今野隆、佐川正敏、佐藤憲子、伊達泰宗、長岡龍作、濱田淑子、森美智子
4. 説明者の職及び氏名
館長＝内山淳一、副館長＝高橋三也、主幹兼学芸普及室長＝高橋あけみ、庶務係長＝鈴木由美、学芸企画室長＝樋口智之、指導主事＝片寄角洋、学芸企画室主任＝水野沙織、同＝佐々木徹、学芸企画室主事・記録＝寺澤慎吾
5. 会長・副会長選出
会長を佐川委員、副会長を尾崎委員とする。
6. 議題及び報告並びに議事の要旨
 - (1) 会議録署名委員の選任
佐川会長・尾崎副会長とする。
 - (2) 報告事項
 - ① 平成 28～30 年度の観覧者数について（庶務係長報告）
〔事務局からの報告要旨〕
「資料 1」のとおり。平成 28 年度と平成 29 年度の総観覧者数を比較すると、4.8% (7,744 人) の増加となっており、特別展「伊達政宗一生誕 450 年」による来館者増が要因だと考えられる。
 - ② 企画展「手仕事の日本」の中間報告について（学芸企画室長報告）
〔事務局からの報告要旨〕
「資料 2」のとおり。
〔委員からの意見等〕
今回の展示はカタログを見るときれいで、良い作品だと思えるのだが、実際の展示を見るとくすんで見えてしまう。民芸が民芸らしく並んでおり、懐かしさを持たないと面白くないのではないか。これは光が足りないのだと思われる。展示品は光の当て方で見え方が変わるのだが、もう少しどうにかできないか。
〔事務局からの回答〕
確かにカタログの写真は美しいが、今回の展示でも博物館なりにライティングや置き方、

高さ、安全性など様々なことを考えて計画し、展示をしている。今回の展示は民藝館の方と共同作業で民芸の展示手法で展示をした。ライティングについては小規模予算のなかでできる限りのことはした。

〔委員からの意見等〕

人を呼ぶには、どういう風にみせるかが非常に重要になる。海外では展示デザインの専門職員がいる館もある。そういう部分も重視していただきたい。

〔事務局からの回答〕

どう見せるかは学芸員の大事な技術なのでさらに研究していきたい。

〔委員からの意見等〕

宮城県民芸協会とは博物館と節目節目で展覧会を共同で開催してきた。「日本民藝地図」は今回の目玉で、効果的に展示されていて文字もよく見えてうれしかった。また、芹沢銈介の小間絵原画が数多く展示されたのも初めてのことであり、たくさん見ることができて感激した。常盤紺型はきれいに染めてあり美しい。展示は日本民藝館で展示されているのと博物館で展示されるのとはまた異なる。整然と清潔に見えた。

③ 市史活用推進事業について（主幹兼学芸普及室長報告）

〔事務局からの報告要旨〕

「資料3」のとおり。

〔委員からの意見等〕

『「仙台市史」活用資料集』はたいへん分かりやすく、この路線は大事だと思われる。

④ 教育普及事業について

〔事務局からの報告要旨〕

「資料4」のとおり。

〔委員からの意見等〕

職場体験の内容はどのようなものか。

〔事務局からの回答〕

仙台市教育委員会の「自分づくり教育」に基づいて、主に中学2年生が職場体験をしている。3日間の期間の中で、学芸員の仕事の補助（レプリカの資料の扱い方など）、学校対応、清掃、電気・機械関係など、様々な業務を体験させ、博物館が多くの人々によって支えられているということを理解してもらうようにしている。

〔委員の意見等〕

平成29年度が5校17人ということは1校あたり2人程度ということか。

〔事務局からの回答〕

応募時点では、1校あたり4名程度までとしている。全体を2グループに分け、1グループあたり10人程度を例年受け入れている。

⑤ 各種機関との連携事業について

〔事務局からの報告要旨〕

「資料5」のとおり。SMMA の連携事業では、特別展「古代アンデス文明展」において仙台市八木山動物公園と連携をし、展示品のなかに動物のリュマを象った作品があるため、リュマにまつわるクイズイベントを予定している。SMMA の参加施設としてこれまで東北大学は総合学術博物館が参加していたが、新たに史料館と植物園が加わり、「東北大学学術資源研究公開センター」という名称で参加している。

⑥ その他

〔委員からの意見等〕

今回企画展については事項として入っているが、常設展について事項として入っていないのは疑問に感じる。常設展で大年寺のコーナーがあるのは良かったが、前回申し上げた伊達綱村 300 年遠忌ということが説明書きに無い。説明があると、お客さんの感じ方も違うのではないか。テーマ I には菅野家拝領政宗甲冑が展示されていたが、隣に綱村の甲冑や斉宗（今年 200 年遠忌にあたる）の甲冑などを置き、時節に合わせた展示をしようか。

〔事務局からの回答〕

綱村の 300 年遠忌は念頭に置いているが、本年、夏の常設展示で綱村の特集をする予定であるため、今回は控えた。来館者にとってはそうしたことが明示されていた方が分かりやすいので、説明を入れるようにしたい。具足についても、5 月 29 日から 9 月 9 日には綱村の具足を展示する予定にしている。

(3) 協議事項

①特別展「戊辰戦争 150 年」開催要項（案）

〔事務局からの報告要旨〕

「資料6」のとおり。

〔委員からの意見等〕

今回、鎮魂というテーマはこの展覧会の中には入っているか。政府軍の方では招魂社などの施設があるが、東北ではどうか。

〔事務局からの報告要旨〕

仙台展では、鎮魂や顕彰といったことには触れないようにしている。

〔委員からの意見等〕

仙台藩では、幕府側で戦った人々の霊を慰める慰霊碑が経ヶ峰にある。そういったものをどこかで紹介すればよいのではないか。

〔委員からの意見等〕

東北以外では明治 150 年として、明治の近代化がいかに成功したのかなどをテーマに展覧会が行われるが、東北では戊辰戦争 150 年という名称で、戊辰戦争そのものに目を向け、その東北にとっての意味を考える、というのが大きな特徴だと思われ、非常に意義のある展示になるのではないか。また、150 年という歴史の中で、戊辰戦争の直後、50 年後、100 年後にそれぞれ戦争をどう捉えていたか、というのが分かると良いのではないか。

〔事務局からの回答〕

それぞれの節目で戊辰戦争をどのように捉えてきたか、という歴史は大事だと考えており、来館者に伝えられれば良いと考えている。

〔委員からの意見等〕

近い将来、(仙台と戦った) 鹿児島黎明館などと一緒に展覧会などをできると良いと思った。

②その他

〔事務局からの報告要旨〕

特に無し。

(4) その他

①その他

次回、平成30年度第2回協議会は7月31日(火)15時からの開催を予定している。